

令和5年度 会派調査研究報告書

(視察先 1 か所につき 1 枚)

会派名	新生クラブ	
出席者	功刀正広・守屋久・金井洋介・秋山祥司・渡邊愛彦	
事業名	調布市環境部のゴミ処理対応について	
事業区分	①研究研修	②調査

1. 韮崎市での課題と研修・調査の目的

<p>調布市は人口約24万人（本市の約8倍）、世帯数約12万の自治体。ゼロカーボンシティの宣言を行っており、ごみ処理分野でも本市の参考になる取り組みを行っている。調布市におけるゴミ対策の状況をヒアリングしたくゴミ対策課を訪ね、説明を受けると共に同市の資源リサイクル施設及びごみ焼却施設を視察した。</p>
--

2. 実施概要

実施日時	令和5年11月10日(金) 9:00～11:30
視察先	調布市環境部ごみ対策課及び同市資源リサイクル施設「調布市クリーンセンター」、ごみ焼却施設「グリーンプラザふじみ」
担当部局	調布市環境部ごみ対策課
報告内容	<p>① ごみ対策課の説明 調布市の人口は約24万人、令和4年度の総ごみ量は6万725ト、ごみ1ト当たりのごみ処理経費は4万8千円。令和4年度の清掃事業の歳入6億8千万円に対し歳出は29億5千6百万円となっている。同市は人口10万人以上50万人未満の232都市中リサイクル率34.6%(令和3年度実績全国平均18.0%)と9位の好成績である。</p> <p>② 「調布市クリーンセンター」視察 ごみ対策課の入る建物の横に平成30年に新設された「調布市クリーンセンター」は、資源ごみである古紙・古布・ビン・カンを効率的に処理し資金化するための施設として利用されていた。</p> <p>③ 「グリーンプラザふじみ」視察 隣接の三鷹市と調布市の共同施設。平成25年3月竣工。燃やせるごみの焼却施設で処理能力は288ト/日。発電能力は9,700kw。</p>

## 1. 運営状況

①調布市の広報誌やごみ対策課が発行する「ザ・リサイクル」等を通じごみ削減やリサイクル率向上に努めていた。最近の取組として市内にある白百合女子大学と連携し、ごみ減量・リサイクルキャラクターである「リサッチョ」を新たに作り、市民への啓発に利用している。ゼロカーボン都市達成に貢献すべく、最新の一般廃棄物処理基本計画では、CO2の排出量削減目標を掲げている。

②「調布市クリーンセンター」は平成30年新設の資源ごみ処理施設で、缶の圧縮のための新しい設備が導入されているなど効率の良い運営がなされている。

③「グリーンプラザふじみ」は、小中学生を始め市民が楽しく見学できる施設となっていた。

## 2. 考察（これらの取り組みを荏崎市にどう活かせるか）

調布市はごみ対策においてもゼロカーボン、SDGS、サーキュラーエコノミー等を強く意識し対応し、リサイクル率でも人口10万人以上50万人未満の232都市中リサイクル率34.6%と9位の好成績を残していた。この姿勢は本市においても見習うべきと感じた。また、市民にごみ減量やリサイクルを訴えるため地元大学と提携し、イメージキャラクターを作りそれをうまく活用していた。これも本市でも検討に値する施策と感じた。



※写真等がある場合は添付すること